

大 慶

# 起業へ特許情報提供

## 学外から事業化手法学ぶ

慶応大学は学内からの起業を促進するため、月内にジャフコなど複数のベンチャーキャピタル（VC）や伊藤忠商事と相次ぎ協力関係を結ぶ。慶大の教員が開発した特許技術の情報などを優先的に提供し、各社に事業化計画を提案してもらう。慶大の教員が経営にかかわるベンチャー企業は現在十五社程度だが、学外から起業のノウハウを導入し、まず三十社に増やす考えだ。

- 慶応大学と提携予定の企業など
- ・伊藤忠商事
  - ・ウォーターペイン・パートナーズ
  - ・エヌ・アイ・エフベンチャーズ
  - ・ジャフコ
  - ・新産業創造研究会（非営利組織）
  - ・東京中小企業投資育成
  - ・日本テクノロジーベンチャーパートナーズ
  - ・日本ベンチャーキャピタル
  - ・バイオ・アクセラレーター
  - ・バイオビジョン・キャピタル
  - ・バイオフロンティアパートナーズ
  - ・UFJキャピタル

## VC・伊藤忠と提携

提携先は伊藤忠などのほかエヌ・アイ・エフベンチャーズ（NIF）、日本ベンチャーキャピタル（東京・東京・港）など。

学校法人慶応義塾（東京・港）が各社・団体と個別に契約を結ぶ。当初の契約企業は十社ほどになる見通しで、非営利組織の新産業創造研究会（名古屋）も加わる予定だ。

慶大の技術移転機関（TLO）である「知的資産センター」が窓口になり、事業化の可能性がありそうな技術の情報を契約先に提供する。公開前の特許情報を扱うこともあり得るため、各社・

団体と秘密保持契約を結ぶ考えだ。

契約企業はこの技術がどのような製品やサービスに利用できるかを調査し、事業化計画を慶大に提案する。

計画の立案自体は無報酬だが、計画が採択されれば、大学教員らがベンチャー企業を設立する際に出資などの機会を得ら

れる。

慶大は一九九八年にTLOを設立し、産業界への技術移転に本格的に取り組み始めた。

その後、国内外で三百件以上の特許を出願するなど一定の成果を挙げたが、起業件数は伸び悩んでいた。VCなどの提携によって、技術を事業化するノウハウを取り入

れる。

政府の「大学発ベンチャー千社構想」などを受け、大阪大が日本ベンチャーキャピタルと共同でファンドを設立、電気通信大のTLOがNIFと組むなど、大学とVCの提携が相次いでいる。慶大のように多くの企業・団体と提携するのは珍しい。